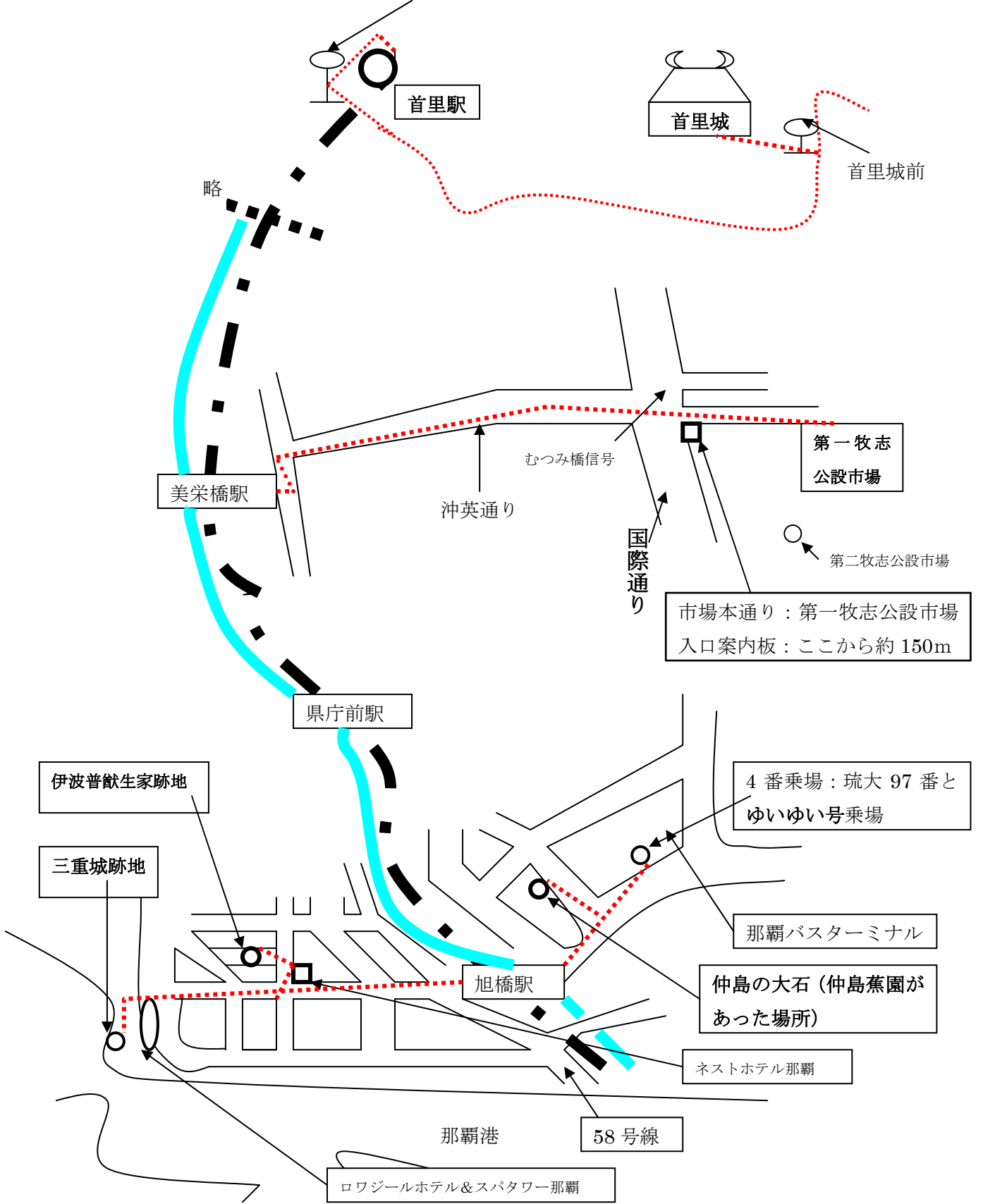


那覇市（那覇西、泉崎、松尾、首里久場川町）地域散策マップ

ゆいゆい号：首里駅前バス停（那覇ま～い：那覇市内観光周遊バス）



仲島の大石（仲島蕉園があった場所：那覇市西 1-13-3）

那覇バスターミナル構内にある県指定の天然記念物で、埋立地前の琉球石灰岩である。この場所は「長虹堤」であって、中国人絵師周煌の「球陽八景 長虹秋霽（ちょうこうしゅうせい）」を、葛飾北斎がそれを参考に描いた葛飾北斎の「琉球八景 長虹秋霽」でもある。また、このバスターミナルは、沖縄軽便鉄道与那原線の那覇駅があったところでもある。

ところで、沖縄軽便鉄道は与那原線[1914（大正 3）年 12 月から営業開始、棧橋荷取扱所駅～与那原駅の 10 駅]、嘉手納線[1922（大正 11）年 3 月末から営業開始から、与儀駅～嘉手納駅の 13 駅で、与儀駅は与那原線の古波蔵に接続]、糸満線[1933（大正 12）年 7 月から営業開始、津嘉山駅～糸満駅の 9 駅で、津嘉山駅は与那原線の国場に接続]があり、嘉手納線の安里駅には那覇と首里とを結ぶ路面電車をまたぐように立体交差をしていたとのことであった。沖縄戦直前の 1944（昭和 19）年に軍用列車として使用され、空襲で線路と汽車が破壊されたが、一部は 1945（昭和 20）年 3 月下旬頃まで走っていたとのことである（参考文献、『沖縄軽便鉄道』90～94 頁より文作成）。



伊波普猷生家跡値（那覇市西 1-13-3）

伊波普猷[1876（明治 11）年 3 月 15 日～1947（昭和 22）年 8 月 13 日]は現在の那覇市西に生まれている。第三高等学校を卒業した後、東京帝国大学で言語学を専攻した。その後、沖縄研究の創始者として言語学・歴史学・民俗学などを総合的に研究するという「沖縄学の父」と称されている。『おもろさうし』研究で、琉球と日本とを繋ぐ研究とともに、琉球の人々のアイデンティティの形成を模索してきた。



三重城跡地（那覇市西 3-2 付近でロワジュールホテル&スパタワー那覇裏手の駐車場内）

三重（みえ、みー）グスク跡地ともいい、大航海時代、那覇港から船出する人達を見送った場所として、現在においても旧暦の正月などには多くの人達が訪れる場所である。遥拝所がそれを意味している。また、この城は第二尚氏 4 代目尚清王の頃に屋良座森グスクとともに那覇の海岸線を守るために築かれたともいわれている。さらに、三つの橋で繋いだことが名前の由来になっているとのことである。第十一管区海上保安本部那覇信号所が頂上にある。この場所周辺は、沖縄軽便鉄道与那原線の棧橋荷取扱所駅があり、当時の沖縄の玄関口であった。





県庁前駅の石敢當とシーサー

石敢當は、元は中国伝来の風習で、中国福建省が発祥といわれている。沖縄県には 10,000 基以上といわれているが、大分県臼杵市豊屋町にも 1575（天正 3）年から存在しているものがあるとのことである。臼杵は大友氏（安土桃山時代）の貿易港で栄えており、ここの石敢當は明からもたらされたのではないかとされている。シーサーは、沖縄県などでみられ建物の屋根および門など備え付けられた魔除けである。



第一牧志公設市場（那覇市松尾 2-10-1）

第一牧志公設市場は、国際通りの案内板を那覇バスターミナル方面に向って左折し、市場本通りから約 150m いった所にある。この市場は第二次世界大戦後、川沿いに自然発生的に興った闇市であった。その後、立ち退き問題が幾度となり起こり市民間の対立も生じてきた。そこで、那覇市は公的管理ができる公設市場の必要性から、1951 年牧志公設市場として開設した。1960 年以降地主による変換要求が生じ市場存続問題が浮上した。さまざまな紆余曲折を経て現在の第一牧志公設市場があり、貴重な観光資源となっている。



首里城（那覇市首里金城町付近）

首里城パンフレットによると、首里城の創建は14世紀頃といわれているが、詳しいことは分からないということである。その後、1406年に尚巴志[しょうはし：1372（北朝：応安5、南朝文中4）～1439（永享10）年]が琉球王国支配のための居城として以来、1879年、最後の国王である尚泰[しょうたい：1843（天保14）～1901（明治34）年]が明治政府に明け渡すまで、約500年にわたって琉球王国の政治・外交・文化の中心として栄華を誇った。首里城には中国や日本、東南アジアなどの交易から様々な文物がもたらされ、漆器、繊維物、陶器、音楽など、琉球独特の文化が花開いたとのことである。







撮影日は2013年11月2～3日である。ただし、2008年9月3日撮影のものは石敢當とシーサー・最後4枚の写真であり、この石垣は首里城公園入口と全く正反対の外からのものである。また、石垣の写真は王朝時代の首里城の石垣と内郭とを感じ取ることが出来る。

参考文献

首里城公園管理センター『沖縄 首里城公園 パンフレット』

ネストホテル那覇『ホテル周辺 歴史散策』

フリー百科事典「伊波普猷」および「第一牧志公設市場」『ウキペディア (Wikipedia)』

松崎洋作 (絵)・ゆたかはじめ (文)『沖縄軽便鉄道』海鳥社, 2009 年.

長崎大学附属図書館企画・編集『長崎大学コレクション I 明治七年の古写真集 長崎・熊本・鹿児島』長崎文献社, 2007 年.